

令和3年度 中央地域包括支援センター自己評価報告書

自己評価実施日	令和3年12月20日
行政評価実施日	令和4年1月12日
運営協議会開催日 (書面開催)	令和4年3月29日

包括情報	
法人名	医療法人 王子総合病院
責任者	管理者 浅野 豊
所在地	苫小牧市若草町3-4-8
連絡先	0144-36-3712

地域情報	
担当地区	旭町、一本松町、入船町、王子町、大町、表町、春日町、木場町、寿町、幸町、栄町、汐見町、清水町、新中野町、末広町、錦町、晴海町、船見町、本町、本幸町、緑町、港町、元中野町、若草町
高齢者人口	5,963 人(R3.10.1現在)
高齢化率	29 %(R3.10.1現在)
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の中心部で、交通の便もよく公共施設や金融機関は多いが、スーパーマーケットのような日常の買い物の場所は少ない。</li> <li>・一戸建てや分譲のマンション、市営住宅が混在し、大きな医療機関や、多様な大型施設も多く存在する。</li> <li>・夜営業の飲食店や、職場への通勤で他の地域からの人の流れはあるが、居住人口が極端に少ない地域もある。</li> <li>・市営住宅の取り壊しと新旧のアパートが多く、入居者の入れ替わりがあるため、なかなか地域活動に結びつかない。</li> </ul>

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 3 人	常勤職員 5 人
主任介護支援専門員 1 人	非常勤職員 1 人
社会福祉士 1 人	
その他 1 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 5.1 年

総合評価	
自己評価	行政評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関の充実により、緊急時の複合的な対応ができるようになり、早期解決に向けた取り組みの足掛かりとなっている。</li> <li>・地域ケア会議開催の成果として、関係機関との連携の有効性が実感できるようになった一方、圏域での会議を見合わせていることで地域との連携への働きかけが足りなかった。</li> <li>・昨年と同様に、職員が抱え込まない支援に取り組んだ。</li> </ul>	三職種の専門性を踏まえ、スタッフ間で適宜、情報を共有しながら迅速に支援をしている。今後も、コロナウイルス対策を講じながら、介護予防の普及や地域の協力的体制づくりなど、活動計画を立てて取り組むことを期待する。

評価項目		
1 運営体制		
(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている		
(2)委託業務の趣旨及び内容・進め方に対する共通理解に努めている		
(3)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している		
(4)PDCAサイクルを活用した運営を行い、業務を継続的に改善している		
(5)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有(研修内容のフィードバックや回覧等)をしている		
(6)個人情報含む記録物を適切に保管している		
(7)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している		
(8)苦情の内容と対処について記録し、センター内共有し再発防止に努めている		
(9)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている		
(10)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りが無い(占有率50%未満)		
(11)相談・面談室のプライバシーが確保されている		
(12)休日・夜間の連絡体制が整備されている		
特記事項	自己評価	行政評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内でコンプライアンス研修、介護予防事業研修などを行い、自分たちの役割を確認している。</li> <li>・介護予防支援や総合事業の対象外のケースについても必要時にカンファレンスを行い、支援方針の共有をしている。</li> <li>・明野・東包括支援センターとで、定期的に事例検討会の実施を再開した。</li> </ul>	職員間で総合相談等、迅速に情報の共有がなされている。また、市内外の研修内容についても職員全体で共有している。今後も人材確保に努め、各職員が同じ目的のもとに協働し活動することを期待する。
2 共通の支援基盤構築		
(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている		
(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている		
(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議や介護予防教室などを通して、地域の状況の確認や情報の発信に努めている。</li> </ul>	地域ケア会議やケース支援を通して、関係者間のスムーズな連携を意識して取り組んでいる。今後も地域のネットワークの構築を期待する。

評価項目		
3 総合相談支援・権利擁護		
(1)相談では的確に状況を把握し、緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。		
(2)継続支援のため、情報整理・分析により課題を明確にしている		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
特記事項	自己評価	行政評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に情報共有しながらアセスメントしてケース対応をしている。特に困難ケースや虐待のあるケースは複合的な対応を必要とし、他機関との連携で早期に対応している。</li> <li>対象者と共に家族も課題を抱える場合には、適切な機関に結び付け協働するなどの支援を行っている。</li> </ul>	三職種の専門性を生かし、職員全体で情報を共有し、本人だけではなく家族への支援も含めて速やかに対応している。今後も関係職種で協力体制を築きながら対応していくことを期待する。
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
特記事項	自己評価	行政評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナウイルスの影響で、圏域ケアマネ会の開催を見合わせている。(令和4年1月、再開予定)</li> <li>ケアマネジャーの担当する個別ケースについては必要に応じて地域ケア会議やカンファレンスを開催するなどのサポートにあたっている。</li> </ul>	コロナウイルスの影響により圏域ケアマネ会の活動はできなかったが、ケアマネジャーに対して地域ケア会議の参加を依頼し、ケアマネジャーの資質向上を図っている。また、必要な情報が的確に伝わるよう情報を収集し、整理がされている。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)介護認定の非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
	自己評価	行政評価
特記事項	・個々の生活実態に合わせ、インフォーマルなサービスや地域の支援を受けられるような調整に取り組んでいる。	本人の状態等を考慮し、インフォーマルサービスを含めた介護サービスだけではない支援を実施している。感染予防のため外出を控えている方の機能低下を防ぐため、自立支援を意識した介護予防支援を期待する。
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や検索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
	自己評価	事業評価
特記事項	・初期集中支援チームや地域ケア会議などの積み重ねから、単に認知症サポーター養成講座のくりではなく、センターとして地域住民に認知症をどのように啓発していくかを模索している段階である。	初期集中支援チームの活用にあたっては、職員全体で相談し合いながら決定している。次年度は、認知症地域支援推進員との連携を図り、圏域における認知症施策を推進することを期待する。
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
	自己評価	行政評価
特記事項	・医療機関との支援方針の違いから、連携がスムーズに進まないことがあり、今後の関係づくりについては担当の部署と協議の場を設けて、体制強化を図った。	医療機関や介護事業所との連携を大切にし、スムーズかつ速やかな支援がなされている。医療機関に働きかけ、各関係者や専門職との良好かつ円滑な医療介護連携がみられた。

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと地域における高齢者ニーズや社会資源について協議しているか		
特 記 事 項	自己評価	行政評価
	・生活支援コーディネーターに限らず、様々な機関と都度話をしながら、役割分担などを明確にしていこう組んでいる。	地域ケア会議を通して、独居や認知症高齢者への支援を各関係機関や地域住民とともに実施している。今後も、地域課題に対して、生活支援コーディネーターと連携しながら進めていくことを期待する。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている(コロナ禍における自粛対応含め)		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
特 記 事 項	自己評価	行政評価
	・生活支援コーディネーターと協働しながら、予防教室卒業者の自主グループ化に向け、シルリハ指導の活用も視野に入れた方法を模索している	コロナウイルスの影響で、地域活動が低迷していたため、活動ができなかった。介護予防教室は、感染対策をしながら工夫して取り組んでいる。コロナウイルス感染拡大の状況においても機能維持するためにできる活動を模索しながら活動することを期待する。

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

<p>1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容(特に好事例の紹介)</p>
<p>昨年同様、前提条件として「個別課題の解決」を優先し、そこに付随する様々な課題を明確にしていくことを職員が意識的にできるよう努めた。その方法の一つとして地域ケア会議を活用し、関係機関や地域の関係者とのネットワークの構築を図った。</p> <p>地域ケア会議においてもなかなか介入できない場合など、自宅の写真を共有し視覚から現状を明らかにすることで、効果的な役割分担ができたことや自宅で開催することで、課題が明確になるなど新しい取り組みが有効だったため、今後に生かせるものと確信できた。</p>
<p>2 今年度事業の達成状況及び成果</p>
<p>医療介護連携について、一つのエピソードから医療機関と協議をする場の設定への働きかけを行い、今後につながる働きかけを行った。</p> <p>支援においても対象を個人、家族、環境を見る視点の重要性を職員全体が理解することにより、家族や環境整備まで取り組んだ(本人の課題解決後の家族への支援にも取り組んだなど)ことで、分野外の機関と協働できるようになったことは、重層的支援体制整備の第一歩と感じた。</p>
<p>3 達成できた又は達成できなかった原因</p>
<p>全職員が兼務の中で、個々の専門性を生かした個別課題解決型地域ケア会議を繰り返し行い、成功体験(課題解決につながった)を重ねきた中で、徐々に多職種、他機関連携の必要性が浸透してきている。(他機関にとっても)</p>
<p>4 課題及び今後の取組</p>
<p>地域活動や地域ケア会議の中から、どこかが主導で行っていることはずっと主導し続けなければ継続していかない現状が見えてきている。</p> <p>過去の反省から、今後、委託型地域包括支援センターにできる個別課題解決型地域ケア会議を活用しながら、関係機関のネットワーク必要性を理解してもらえるよう働きかけ、その実践を通じて地域の力を生かせるよう生活支援コーディネーターとの連携を意識した活動を行っていく。</p>